

入校者5年ぶり定員超

職能短大
運営協 志願者増へ意見交換

応募者増加が課題とした。

このほか同校が取り組む就職支援、地域貢献活動などについて説明した。6月24日現在の進学・就職状況については修了予定者50人の4割が進路決定済みなどと報告した。

質疑応答では、委員から生産技術科の応募者増加の取り組みについて質問があった。後藤校長は「同科には今年3人の女性が入学した。機械分野が身近なものであり、女性も活躍できる職種だとPRすることで応募者の幅を広げたい」と答えた。

同協議会の委員は学識経験

えたい。3年目のコロナ禍だが、感染症対策を徹底して、対面での就学機会を守りつつ学生を進路先に送り出した」とあいさつした。

職員の報告によると、本年度は定員60人に対して62人が入学。5年ぶりに定員を上回った。一方、3学科のうち唯一

の方向性などについて委員と意見交換した。

本年度初の会合に委員や同校職員ら16人が出席した。後藤校長は「今年の1年生は30期生。節目の年だが、施設や設備の老朽化も激しいため、改修工事などで学ぶ環境を整

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）の運営を話し合う「高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会秋田職能短大部会」は

7日、同校で開かれた。職員が入校状況や本年度計画について報告したほか、学生募集



学生募集の取り組みについて意見交換した協議会（秋田職能短大）

者、地元企業、行政、労働団体などの代表者8人で構成される。次回の会合は来年1月下旬を予定している。